



新函館北斗駅のデザインコンセプトは「自然と共に呼吸するモダンで温かみのある駅」



木古内駅のデザインコンセプトは「波と森のプロムナード～北の交流発信地」



依頼文を手渡す竹津英二
北海道新幹線建設局長
(左上: 迫俊哉小樽市長、
右上: 木幡正志長万部町長、
下: 文字一志俱知安町長)
(八雲町へは郵送にて依頼)

各自自治体では地域色豊かな駅にしようと有識者や官民による委員会等を立ち上げ、コンセプトづくりをスタート。長万部町はまちの未

来を担う高校生に任せる方針を打ち出しているほか、八雲町、俱知安町、小樽市でも地域の人がとを交えての検討に着手しています。なお、札幌駅については駅前再開発事業との整合を図るため、札幌市、JR北海道と連携しながら別途検討を進めることとしています。

同様の手法を用いて開業した新函館北斗駅、木古内駅及び奥津軽いまべつ駅は、いずれも地域のランドマークとして親しまれ、さらには周辺エリアの観光拠点としてまちの活性化に一役買っています。駅づくりはまちづくりの一環でもあることから、新駅がそれぞれの地域にもたらす効果に各自自治体は大きな期待を寄せています。

文／本間吾里砂

あしたの新幹線をつくる

Vol.3



鉄道・運輸機構は、北海道新幹線（新函館北斗・札幌間）の建設主体として、北海道新幹線の整備事業を進めています。

北海道新幹線の札幌延伸に伴い、新たに五つの新幹線駅が誕生します。駅ができるのは八雲町、長万部町、俱知安町、小樽市、札幌市の五市町です。

JRTTでは利用者に喜ばれ、便利で使いやすい駅、そして地元で愛される駅を地域の人がと「協働」してつくり上げることが基本姿勢とし、新駅の整備計画を進

めています。その第一段階として、五月に八雲町、長万部町、俱知安町、小樽市へ新駅のデザインコンセプト作成を依頼しました。

今後は一年程度を目標に各自自治体にデザインコンセプトを作成していただき、それを基にJRTTが複数のデザイン案を用意。その中から各自自治体を選んだデザインを採用し、新駅の実施設計に着手する運びとなります。

新駅を担当しています！

JRTT
北海道新幹線建設局計画課
担当係長
本田 美穂 さん

※詳しくは「JRTT 北海道新幹線」で検索 ⇒ <https://www.jrtt.go.jp/project/hokkaido.html>